

CSR SECTION

CSR基本方針

ヤマハ発動機グループは、社会からより信頼される企業として、国内外の法令ならびにその精神を遵守するとともに、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切に、企業理念に基づく事業活動を通じて、社会の持続可能な発展に貢献します。

取引先においても、この方針の趣旨を支持し、それに基づいて行動することを期待します。

お客さま

- 安全で高品質かつ革新的な製品とサービスを通じて、世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供します。
- 製品に関する有益な情報を分かりやすく提供します。
- お客さまをはじめ事業活動にかかわる人々の個人情報保護の徹底に努めます。

株主・投資家

- 長期安定的な成長を通じた企業価値の向上をめざします。
- 事業・財務状況と成果の適時かつ適正な開示を行います。

従業員

- 均等な雇用機会を提供し、従業員の多様性を認め、差別を行いません。
- 公正な労働条件を提供し、安全かつ健康的な労働環境を維持・向上するよう努めます。
- 人権を尊重し、いかなる形であれ児童労働・強制労働は行いません。
- 従業員と会社が、相互信頼に基づき、誠実な対話と協議を行い、お互いに繁栄するよう努力します。

取引先

- 調達先や販売店などの取引先を尊重し、相互信頼に基づき、長期的視野にたって相互繁栄の実現に取り組みます。
- 調達先の決定にあたっては、国籍や規模にかかわらず広く世界に門戸を開き、総合的な評価に基づき判断します。
- 各国・地域の競争法を遵守し、公正な取引を維持します。

地域・社会

- 各国の文化・慣習を尊重し、企業市民として社会との調和に努めます。
- 納税、雇用創出、モビリティ創出などを通じて、健全な地域社会の発展に貢献します。
- 人材育成、環境保全、交通安全普及など社会貢献活動を推進し、また従業員の自主的な活動を支援します。
- 行政府諸機関との健全かつ公正な関係を維持します。

地球環境

- 環境技術の開発を進め、環境と経済が両立した製品の実現をめざします。
- 限りある資源を大切に、事業活動による環境負荷の最小化に努めます。
- 幅広く社会と連携・協力し、環境保全活動に取り組みます。

CSR情報

お客さま	42
従業員	44
株主・投資家	46
取引先	47
地域・社会	48
地球環境	50

お客さま

お客さまに感動を伝えるモノ創り企業を目指して

お客さまとの関係をより密に続けていくことによって高められるもの、それがヤマハ品質であり、常に全社員が品質の向上・充実の努力を続けなければならないと考えています。ヤマハ発動機グループでは「お客さま基点」の強化とお客さまの声をさらに活かしたモノ創りのために、品質向上に向けた取り組みを継続し、より満足度の高い製品をお客さまにお届けできるように努めています。ここではヤマハ発動機CSR基本方針に掲げているお客さまとの関わりにおいて、重視している取組みの一部をご紹介します。

品質向上への取り組み

2013年7月、台湾のYMTT*は主要取引先39社、88人の参加による品質連絡会議を開催。当社からも調達品質部門の部門長が出席し、グローバル品質方針について説明を行いました。YMTTでは、品質情報の共有、アクションプランとトレーニングによる品質改善活動を実施しています。YMTTと台湾サプライヤーからなる「台湾チーム」は、これからも世界のヤマハ工場に品質の高い部品を供給し続けます。

※YMTT: 台湾山葉興業股份有限公司



YMTTでの品質連絡会

新たな感動の提供

第43回東京モーターショー2013では、小型モビリティを基幹事業とする当社ならではの「広がるモビリティの世界」を提案しました。そのひとつが、二輪本来の機動性の高さに新しい楽しさを加えた、“Leaning Multi Wheel”の『TRICITY Concept』です。『TRICITY Concept』は、旋回時にフロント二輪が車体と同調して傾く当社独自のLMW機構を採用し、独自のディメンション&ジオメトリーの中に調和させたことにより、走行時の軽快でスポーティなハンドリングと安定感の両立による「新しい楽しさ」を実現しました。



TRICITY Concept

お客さま対応/サービス

オーストラリアで船外機のサービスクリニックを実施

オーストラリアのYMA*は2回目となる船外機サービスクリニックを実施しました。YMAと当社の合同チームがタスマニア州のサケやカキの大規模養殖業者、観光ボート業者を訪問し、過酷な業務環境下で使用されている船外機のチェックを行いました。

YMAでは今後もサービスクリニックに代表される市場密着型活動を継続し、船外機市場でのNo.1ポジション堅持と顧客とのさらなる信頼関係強化を目指します。

※YMA: Yamaha Motor Australia Pty Limited

安全運転普及活動

インドでヤマハ女性のためのライディングトレーニングプログラム(YFRT)の実施

『CYGNUS RAY』の発売後、若い女性に安全運転について学んでいただくためにインドのIYM*はYFRTプログラムを開始しました。定期開催プログラムとして、1年を通じてインド国内各地のさまざまな大学やその他の教育機関で実施しています。

若い女性に安全なライダーになっていただくことで、事故を防止することを目指しています。

※IYM: India Yamaha Motor Pvt. Ltd.



TOPICS

船外機生産累計1,000万台突破

船外機が生産累計が1,000万台を突破し、袋井工場にて記念式典を開催しました。船外機事業に関わる関係者が集まり、1,000万台目となるニューモデル『F200F』のラインオフに合わせテープカットを行いました。

当社の4ストローク船外機は、小型、軽量、コンパクトで機動力と環境性能を両立。フュエル・インジェクションモデルとして、『F200C』『F200F』『F175A』『F150A』『F115B』『F90B』『F80B』をラインアップしています。複数のセンサーが運転状態を的確に把握し、エンジンの最適な燃焼状態を精密にコントロールするECM(エンジンコントロールモジュール)を搭載したほか、故障診断システム(ダイアグノシス)を装備し、サービス性を向上。さらに『F200F』『F115B』では直列4気筒を採用し、クラス最軽量を実現*。燃費や加速性能の向上はもちろんのこと、より多くのボートへのマッチングを可能としました。

※当社調べによる(2014年2月現在)、200馬力の4ストローク船外機との比較。



従業員



グローバルな視野から価値を共有できる組織づくり

ヤマハ発動機グループでは、グローバルな視野から個人と会社が「高い志を共有し、研鑽しあい、協力しあい、喜びを分かちあう」組織体制を目指し、多様性が尊重される職場づくりを進めています。

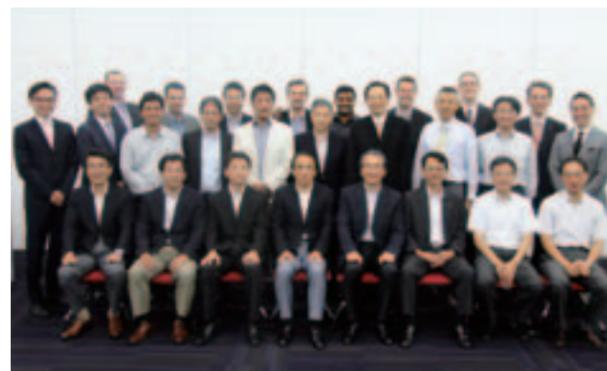
人材育成／キャリア支援

グローバル人材育成の推進

ヤマハ発動機は、ますます高まる世界規模でのビジネス展開を踏まえ、国内外グループ会社経営者間のディスカッションによる課題共有の場を設定した上で、海外拠点で採用された社員の現地経営幹部層への登用拡大や、日本人社員の海外経験の加速などを通じ、これまで以上にグローバルに活躍する人材の育成を積極的に進めています。

2013年9月には第1期GEP*の最終回にあたる第3回研修が開催されました。9カ国15人の研修生が3グループに分かれ、10年後のヤマハ発動機グループを見据えた事業活動の提言を行い、修了証書が授与されました。将来のヤマハ発動機グループ経営を担う次世代経営幹部層を育成することにより、グローバル人材が活躍する場の拡大につなげています。

*GEP: Global Executive Program グローバル経営幹部育成プログラム



仕事と生活の両立支援

自立的で創造的な仕事環境を目指して

ヤマハ発動機グループでは、従業員と会社の関係を「ビジネスパートナーシップ」、会社が担う役割を「自立した個人に対する魅力づくり」と定義し、相互確認を前提としたキャリアプランの設計を支援するとともに、育児・介護休職制度などのワークライフバランス(仕事と生活の両立)を確保した職場づくりを目指しています。また、従業員が各自の状況に適した働き方ができるように選択肢の充実に取り組んでおり、2013年の有給休暇の取得率*は77.9%となっています。

*取得率は全正社員の「年間有給休暇発生日数」に対する実際の「年間取得日数」で算出

職場の安全衛生

安心して快適に働ける職場環境を目指して

ヤマハ発動機では、中央安全衛生委員会が中心となって、安全な労働環境の整備をグローバルに推進しています。労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS*)に基づいてリスクアセスメントを実施、職場の潜在的な危険性や有害性の発見に努め、労働災害防止活動に取り組んでいます。また、安全管理者研修や監督者の能力向上研修などの階層別の教育・研修、安全衛生大会の開催などを通じ、安全を支える人材の育成にも注力しています。

2008年から継続して進めているOSHMSの導入の状況は、2013年末までに国内8社、海外9社がグループ認証を取得しています。

*OSHMS: Occupational Safety & Health Management System

多様性を活かした職場づくり

ヤマハ発動機グループは「企業活動の原点は人」という基本認識のもとで人権に対する考え方を『CSR基本方針』『倫理行動規範』のなかで明示しています。

ヤマハ発動機は、「障がい者と健常者が一緒に就労できる職場運営を行う」という考えのもとに「障がい者雇用促進委員会」を設置し、各部門に配置した担当委員による業務分析などによる職場環境の整備に努めています。2013年12月末の時点で重度障がい者79名、軽度障がい者62名の計141名が活躍していますが、障がい者雇用率は1.95%となっています。日本では2013年4月1日以降の障がい者法定雇用率が1.8%から2.0%に引き上げられ、ヤマハ発動機では障がい者雇用水準を高める追加の施策を現在進めています。今後も障がい者雇用を進めていくことで、障がい者と健常者が共に生活できる社会の実現に努めてまいります。



障がい者が働く職場でコミュニケーションのサポートが行えるように、手話教室や要約筆記研修を実施

心と体の健康のためのサポート

ヤマハ発動機では、従業員の心と体の健康維持・改善を支援するためにさまざまな活動を推進しています。

生活習慣病の予防・改善については、ウォークラリーイベントの開催、年2回の「歩け歩け運動」の実施などを通じて、運動習慣による肥満の防止や持久力向上に努めるなど、健康で活力のある職場づくりに取り組んでいます。また、禁煙の取り組みを支援するために、健康保険組合との協力で希望者に対する禁煙補

助剤の提供や禁煙指導を行っています。2013年は喫煙率低減・受動喫煙防止活動として時間制喫煙、喫煙場屋外化、禁煙支援に取り組み、前年比0.8%(人員では81名相当)喫煙率低減につなげた結果、喫煙率は30.3%となりました。メンタルヘルスに関するサポートとしては、産業医による保健指導、新任基幹職・監督者を対象としたメンタルヘルス研修、海外駐在員や中途で入社した社員に対する支援といった取り組みを引き続き実施しています。

TOPICS

第1回「Global Brand Meeting (GBM)」開催

2013年に新しい中期経営計画をスタートするにあたり、全世界のヤマハ発動機グループの共通概念として、社内・社外に発信すべきメッセージとして、ブランドスローガン“Revs your Heart”とブランドステートメントが発表されました。全世界のヤマハ発動機グループの従業員1人1人がヤマハブランドを体現できる人になることを目指し、2013年9月には海外13カ国、国内2拠点・10事業部のブランド推進担当者によるGBMを開催しました。



株主・投資家



取引先



ヤマハ発動機では株主・投資家の皆さまに正確かつ適切な情報を適時に提供し、説明責任を果たすために、専門部門を設置して国内外でのIR活動を実施しています。

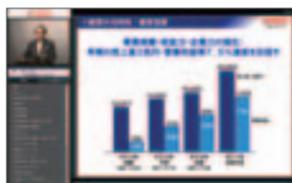
2013年については、四半期ごとの決算・株主総会に加え、海外の投資家訪問によるIRミーティングや、IR情報のウェブサイトでの開示、個人投資家向けのウェブサイト運営も行うとともに、7月にはアナリスト・ジャーナリスト向けに、事業説明会を行い、その模様を動画で公開することで、多くの株主・投資家の皆さまが当社経営戦略の理解を深めていただけるよう、情報開示に積極的に努めました。

事業説明会(2013年7月3日開催)資料

http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/report/pdf/2013/Yamaha-motor_Business_information_session_jp.pdf

事業説明会の動画

<http://www.irbroadcasting.net/ir/7272/jigyuu/#index=1>



株主や投資家の皆さまに向けた情報は、ウェブサイトの「IR情報」で開示しています。

ディスクロージャーポリシー
<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/policy/>

配当方針
<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/shareholder/dividend/>

IR情報(トップページ)
<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/>



IRサイト

協働と公正の精神に基づくグローバル調達・販売ネットワーク

ヤマハ発動機の製品は、国内外のさまざまなサプライヤーとの協働によって成り立っています。ビジネスのグローバル化によって拡大していく調達・販売体制の中で、ヤマハ発動機グループは「相互信頼・相互繁栄」の精神に基づいて国内外さまざまなサプライヤー・販売店との協働関係を確立しています。そのため日ごろから、各国・地域の競争法を遵守した公正な取引の維持に努め、ともに持続可能な成長を目指すパートナーとしての関係構築に取り組んでいます。

サプライチェーンでの取り組み

ヤマハ発動機グループでは、サプライチェーンとの関係において、「モノを買う調達」だけではなく「コストと品質を一緒に創りこむ“モノ創り調達”」という考えを重視しています。

この活動例として「理論値生産[※]」のサプライヤーへの展開があります。これはサプライヤーに対して単にコストダウンを要求するのではなく、モノ創りの絶対価値をサプライヤーの皆さまと分析設定し、どうコスト競争力を高めるかに向けてともに取り組んでいくものです。

ヤマハ発動機では「理論値生産」を国内外のサプライヤーに

展開を進めるために「理論値インストラクター」として社員を教育し派遣することで、ともにコスト競争力強化に取り組んでいます。また、環境負荷低減・資源エネルギー効率活用のための「グリーン調達ガイドライン」や、安全・品質・コンプライアンスに関する「調達先CSRガイドライン」についての研修会などを通じて公正でクリーンな調達活動をグローバルに推進しています。

※理論値生産：生産におけるさまざまな作業を分析して本来に価値を生む作業だけを価値作業とし、それ以外を排除していく作業ロス削減手法の一つです。一般的な手法が現状からみたムダの排除を積み上げていくのに対して、最初に理論上の価値作業を分析設定し、その実現に向けた改善に取り組むものです。

販売店との取り組み

世界各国で展開する販売店は、お客さまとの接点として、ヤマハからの「次の感動」を伝える重要な発信地の役割を担っています。ヤマハ発動機グループでは、定期的にディーラーミーティングなどを開催して販売店との連携を強化し、安全運転普及活動や地域貢献活動支援を通じて、共通の価値を提供する販売ネットワークを構築しています。

日本では、ヤマハスポーツバイクディーラーであるYSPを主とした販売店とグループ会社のヤマハ発動機販売(株)が協働で、二輪車の社会環境づくり、マナー促進活動、二輪車リサイクル、植樹キャンペーン環境活動、盲導犬育成募金活動などに取り組んでおり、地域や社会との関係構築において重要な役割を担っています。

地域・社会

ヤマハ発動機グループの活動拠点は、世界各地に所在し、地域社会の人々に支えられて事業活動を行っています。また、私たちの製品が世界各地の人々に利用され、より豊かな生活に役立つよう願っています。私たちは企業と地域社会との共存共栄を図り、持続可能な関係が重要であるとの認識に立ち、そのためには地域のステークホルダーの皆さまと日常的なコミュニケーションを通じて、信頼関係を維持・向上することが大切であると考えています。

ヤマハ発動機グループの取り組む社会貢献活動は、「将来を担う人々の育成」「地球環境の保全」「交通安全普及」「地域社会の課題」の4つを重点領域としています。ヤマハ発動機ではグループ会社が実施している社会貢献活動を重点領域ごとに集計し社内でも共有することで、地域社会との「共通価値の創造(CSV)」につながる意識の啓発を続けています。2013年に集計したグループ会社78社(国内21社、海外57社)の社会貢献活動報告の中から一部の事例をご紹介します。

社会貢献活動の重点領域

取り組みテーマ	グローバル課題			ローカル課題
	将来を担う人たちの育成	地球環境の保全	交通安全普及	地域社会の課題
活動内容	・スポーツを通じた心身の育成 ・モノ創りを通じた創造性の育成、など	・地域社会への環境教育 ・生物多様性の尊重、など	・社会への交通安全教育 ・啓発活動、など	・当社製品や人材、ノウハウを使った地域支援、など

オーストラリアで「バラエティ・ザ・チルドレンズ・チャリティ」に協力

オーストラリアのYMA[※]では、病気やその他の恵まれない状況に置かれた子どもたちや、特別なニーズを抱える子どもたちの、生活や健康、学習を支援するための資金集めの活動を毎年行っています。「バラエティ・ザ・チルドレンズ・チャリティ」と協力し、さまざまな景勝地をヤマハのウォータービークルで回るツーリングイベント「ヤマハ・バラエティ・ジェット・トレック」を開催しています。イベントの参加費をチャリティ募金とし、ツーリングでの絶景を楽しむとともに



にチャリティを行うこのイベントは2013年の開催で8回目となりました。60台ものウォータービークルが集結し、11の町を訪れ、総移動距離は667km、総額12万5,000ドルを集め寄付しました。

※YMA: Yamaha Motor Australia Pty Limited

環境保護のため、世界各地で植林活動

ヤマハ発動機グループでは、日本をはじめ各国の現地法人が地元の行政などと協力して、植林活動を行っています。タイのYPMT^{※1}では、タイ中部でタイランド湾と接するチョンブリ県の環境推進課の協力を得て、114名の従業員がサタヒブ海岸に美しい海岸を後世に残す活動としてマングローブの苗木200本

の植樹を行いました。また、米国のYMUS^{※2}ではサン・バーナディノ国有森林で60名の従業員がサボテンの植樹や清掃作業を行っています。

※1 YPMT: Yamaha Motor Parts Manufacturing (Thailand) Co.,Ltd.

※2 YMUS: Yamaha Motor Corporation, U.S.A.



各国でYRA(ヤマハラディングアカデミー)を開催

2013年インドネシアで開催されたヤマハ・アセアンカップレースの会場で、世界最大規模の子ども向けYRA(Kids-YRSR)が開催されました。

500人の小学生とその保護者が参加、100人のYIMM[※]インストラクターが、交通安全ガイダンスと「PW50」「TTR50」を使った実技体験教室を行い、会場では、初めて操作した子どもたちのみならず、保護者も含めて歓声と熱気に包まれました。

※ YIMM: Yamaha Indonesia Motor Manufacturing



従業員ボランティア活動が第38回社長賞で表彰

従業員のボランティア意識の啓発と行動を始める“きっかけ作り”として2004年から「4万人のV作戦」を展開しています。従業員が少なくとも年1回はボランティア活動をすることにより、グループ全体で4万人が社会貢献を行うことを目指しております。2013年は延べ37,730件で、旗印の「4万人」をクリアできませんでしたが、状況の分析と対策を進め従業員のボランティ

ア意識の啓発に引き続き努めています。

また、ヤマハ発動機グループでは、業績やヤマハブランドの価値向上に貢献した個人や組織を表彰する社長賞の選定と表彰を定期的に行い、人と組織のモチベーションアップと活性化に役立っています。「企業目的、経営理念に沿った行動を通じて、優れた業績や成果を上げたもの」「ヤマハブランドの価値向上に大きく貢献したもの」「社会に多大な貢献をしたもの」を選定の基準としており、2013年は「東北漁業復興の為に和船建造・供給による業績および企業価値向上」とともに、「子供向けものづくり講座『おもしろエンジンラボ』の活動」を行っている社員ボランティアグループの20名が表彰されました。

フィリピン台風被災地への支援

2013年11月29日に当社グループを代表して、当社、YMPC^{※1}、現地法人のYMPH^{※2}が合同で、緊急支援物資やヤマハ汎用エンジン(100万円相当)と義援金(計:1,300万円相当)を、現地で信頼の厚い支援団体ABS-CBN財団に提供しました。

また、追加支援として、現地YMPHでは従業員と協力して、水や米などの食料品、衛生キット等の救援物資(2,403パック:280万円相当)に従業員たちが持ち寄った救援物資を合わせて被災地で配布を行いました。被災地および被災された皆様の一日も早い復旧・復興に向け、さまざまな形で今後も支援を続けてまいります。

※1 YMPC: ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社
※2 YMPH: Yamaha Motor Philippines, Inc.



地球環境

地球環境との調和に努め持続可能な社会の実現を目指して

ヤマハ発動機グループは、2010年に策定した「環境計画2020」に基づき、地球環境や社会との調和に努め社会的責任を果たす企業を目指します。

環境活動の計画

ヤマハ発動機グループ 環境計画2020

取り組み分野	重点取り組み項目	2020年目標	
エコプロダクツ	環境・お客さま基点の製品開発による『環境魅力向上』	エコプロダクツの領域は、全社の長期ビジョン“Frontier2020”として展開する 「環境負荷物質のリスク低減」 「グリーン調達」の推進	環境負荷物質の把握と代替の推進
	環境・お客さま基点の製品開発による『環境魅力向上』	「環境負荷物質のリスク低減」 「グリーン調達」の推進	環境負荷物質の把握と代替の推進
エコオペレーション	環境負荷最小化を目指したグローバルな事業活動による『環境保全』	温室効果ガスの排出量削減	CO ₂ 原単位で年平均1%削減
	環境負荷最小化を目指したグローバルな事業活動による『環境保全』	「3Eで3Rを」 「水使用量の削減」 3E:つくりやすく、直しやすく、分解しやすい 3R:リデュース・リユース・リサイクル	限りある資源の有効利用と循環利用の促進
エコマネジメント	グループ環境ガバナンスの仕組み強化による『環境管理』	「グループ全体の環境管理システムを構築し運営」	グループ全体の運営とローカルな活動の連携が取れている
	グループ環境ガバナンスの仕組み強化による『環境管理』	「グループ全体の環境管理システムを構築し運営」	グループ全体の運営とローカルな活動の連携が取れている
エコマインド	持続可能な地球環境を目指した多様なエコ活動による『環境貢献』	「継続的な環境教育による意識改革」	グループ全員が高い目標意識で環境取組を積極的に行っている
		「感覚環境(臭気、騒音など)の改善」 「地域とのコミュニケーション」 「生態系の保全」	企業市民として地域から信頼され、敬愛を受けている
		「環境を切り口とした積極的な情報発信」	環境先進企業として社会から高い評価を受けている

環境経営を推進する体制

ヤマハ発動機グループでは、環境活動を職掌する担当本部長からの諮問を受ける「環境委員会」を国内外における環境活動の中核を担う組織として位置づけています。この委員会が、環

境に関わる活動の方針やビジョン、中長期の環境計画、環境保全に関連する戦略投資案件、環境モニタリングに関する事項および課題への対応、そのほか環境経営に関する重要課題についての審議を行っています。

直接/間接排出ごとの温室効果ガス排出量の把握と排出量削減活動

ヤマハ発動機グループでは、温室効果ガスの排出において、エリア別に、企業活動による直接的な排出(工場で使用する燃料の燃焼等からの直接的な排出)と、間接的な排出(工場・オフィスでの電力使用量等による間接的な排出)を把握し、その削減に努めています。2013年度は、2012年度比で生産量は増加しましたが、省エネ設備の導入等を進めることで、総排出量を減少させることができました。

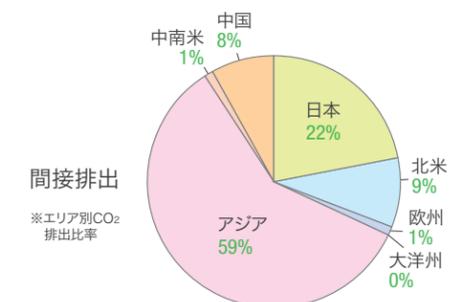
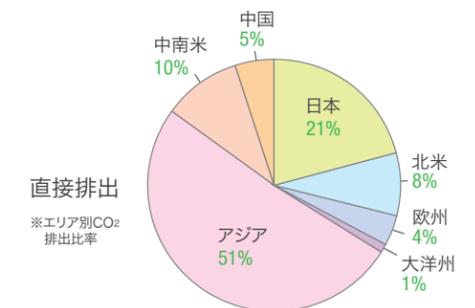
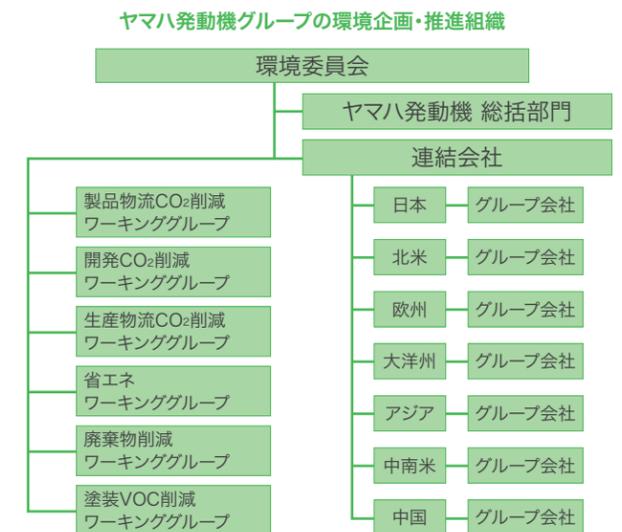
2013年、ヤマハ発動機浜北工場では、金属加工物洗浄機の消費電力削減を目指して新たにヒートポンプ式*加温システムを導入しました。これにより、従来の電気ヒーターに比べて消費電力を25%削減することができました。ヤマハ発動機では2011年の袋井南工場に引き続き2例目の導入事例となります。

今後、ヒートポンプ式加温システムを他の国や地域の工場へも展開をしていく計画です。また、エリア別の間接・直接排出量をより詳細に把握し、各工場・各事業所ごとに一層の排出量削減に向けた活動をしてまいります。

*ヒートポンプとは、気体は圧縮すると温度が上がり、膨張すると温度が下がるという自然の原理を応用して、周りの空気から熱を集め利用することで、小さな投入エネルギーで大きな熱エネルギーが得られる省エネ技術です。



浜北工場の加温システム

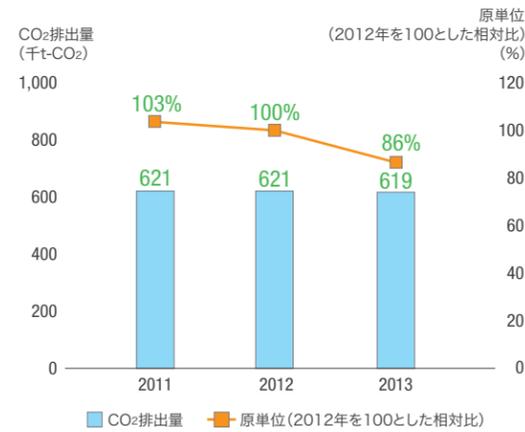


ヤマハ発動機グループのCO₂排出量の推移

ヤマハ発動機グループは、二輪車を中心とした輸送機器メーカーであり、温室効果ガスの削減を環境分野における最重要課題として取り組みを進めています。

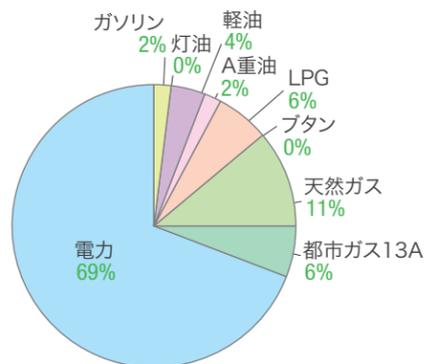
グループ共通の目標としては、「CO₂原単位削減1%/年」を設定し、製品の開発、製造など、事業活動全般における温室効果ガスの削減を進めています。2013年度は2012年度に対し原単位14%の削減となり、CO₂排出量では、生産台数が増加しましたが、2千t-CO₂削減し619千t-CO₂となりました。今後も、国内・海外のグループ会社によるエネルギー使用量削減に向けた活動状況のモニタリングと、グループ会社に対する支援を行うなど、効率的な温室効果ガス削減に取り組んでいます。

ヤマハ発動機グループ CO₂排出量



ヤマハ発動機グループのエネルギー投入量

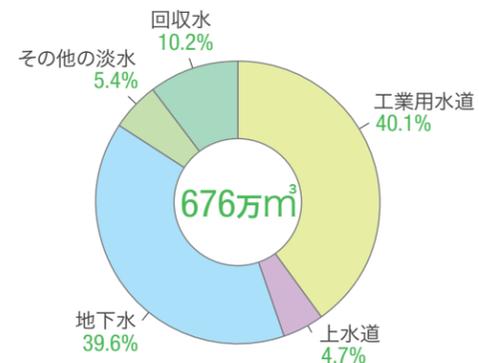
ヤマハ発動機グループの2013年度のエネルギー投入量は全体で1,154万GJとなり、69%が電力で798万GJが投入されています。そのうち、約80%が日本を含めたアジアで占められています。電力使用量削減のため、電力見える化設備導入による現状分析と削減活動の実施、工場への省電力設備の導入、事務所におけるLED照明の導入などに計画的に取り組んでいます。



水資源の把握と削減

ヤマハ発動機グループは水資源使用量の把握に努めています。2013年度に把握できた使用量はグループ全体で676万m³となり、40.1%が工業用水で271万m³、39.6%が地下水で267万m³などを使用しています。

限りある資源の有効利用と、循環利用の促進を目標としており、グローバルな水使用量の把握の継続に努め、工場での冷却水循環化や回収水(雨水など)の利用をはじめ、水使用量の削減に取り組んでいます。



TOPICS

次世代を担う産業用無人ヘリコプターとして新開発したニューモデル『FAZER』を2013年11月初旬から発売

『FAZER』は、(1)安定した積載重量の確保、(2)汎用性の高い次世代機体プラットフォームへの進化、(3)今後の環境規制への対応を主眼に開発し、わが国の成長戦略の一つである「攻めの農業」に貢献できる製品です。また、海外での農業利用、測量・観測業務にも対応できる能力と利便性を兼ね備えています。

従来モデルからは、(1)エンジン出力向上(従来機種比:+24%)による積載能力の向上(同:+50%)、(2)新設計の送信機や新制御システムの採用による操作性向上、(3)FI(燃料噴射装置)を採用した4ストロークエンジンによりクリーンな排気と優れた静粛性などを実現しています。



環境配慮

騒音が低減 73dB→70dB 50m離れた地点での測定値 当社計測方法による	低燃費化 燃料消費率 20%削減 (約20ℓ/1日)	排気ガス性能アップ 4ストロークエンジンで ハイドロカーボン 95%以上カット
---	--	---

環境ISO認証 世界39社での統合を開始

海外拠点を含むグループ会社で導入しているISO14001環境マネジメントシステムを2012年4月から統一認証化する取り組みをスタートしました。

当社グループには当システムを導入している会社が日本・欧米・アセアン・中国・台湾・インド・南米の各地域で39社あり、それぞれが別々の認証機関から審査を受けている状態にあります。これを1つの認証機関でグローバルに統合することで、一元管理によるガバナンスの向上、環境活動のレベルアップ、効率化によるコストの大幅低減などを見込んでいます。



2013年ヤマハモーター台湾にて統一認証に向けた説明会